

【第2章 これまでの取組み・成果と課題】

第2章 これまでの取組み・成果と課題

1 前計画における主な取組みと成果

北九州市子ども読書プラン（第2次北九州市子ども読書活動推進計画）
～「読書好きな子ども日本一」をめざして～
【平成23年度～平成27年度】

平成23年度を開始年度とする「北九州市子ども読書プラン」では、「読書好きな子ども日本一」を目標に、3つの「活動の基本方針」の下、5施策27事業に取り組みました。

(1) 計画の目標

◆「読書好きな子ども日本一」をめざして

すべての子どもが本と出会う機会を与えられ、読書の楽しさや喜びを味わうことができる環境が整い、いつでもどこでも日常的に読書に親しみ、自然に本に手を伸ばす子どもが育つ、読書が楽しい好きだと実感できる「読書好きな子ども日本一」の北九州市をめざします。

(2) 活動の基本方針

- 1 家庭、地域、学校、市立図書館における子どもの読書活動の推進
- 2 市立図書館と学校との連携・協力の推進
- 3 子どもの読書活動に関する理解と関心の向上

(3) 計画期間

平成23年度～平成27年度

(4) 主な取組みと成果

<p>【評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「目標達成」：計画最終年度の目標値を達成した ● 「改善」：目標値は達成しなかったが、計画策定時より、指標が改善している ● 「後退」：計画策定時より、指標が後退している <p>※ 平成27年度の実績が出ていないものについては、平成26年度末現在の状況で評価し、() 表示</p>

《計画の全体指標》

全体指標	平成21年度	平成27年度	目標値	評価
<p>不読率</p> <p>〔学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)読書を全くしない児童生徒の割合〕</p>	<p>小6 25.3%</p> <p>中3 46.4%</p>	<p>小6 22.8%</p> <p>中3 41.4%</p>	<p>小6 20.0%</p> <p>中3 37.0%</p>	改善

全体指標である「不読率」は目標値には達しませんでした。改善しました。

活動の基本方針① 家庭、地域、学校、市立図書館における子どもの読書活動の推進

(施策1) 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

家庭において、子どもの成長段階にあわせて、子どもと一緒に絵本に親しんだり、子どもが読書に親しむ雰囲気を整えたりすることは、子どもの読書習慣を形成するうえで非常に重要です。そこで、まずは保護者自身が子どもの読書活動に関心を持てるように、家庭での読書の重要性について理解と関心を高めるとともに、子どもの読書意欲の向上につながる読み聞かせや家読など、家庭における読書活動の推進に努めました。

また、地域のまちづくりの拠点として小学校区単位に設置された市民センターその他の施設において、読み聞かせボランティアなどの協力も得ながら、子どもが読書に親しむ契機となる活動の一層の促進に努めました。

指標	平成21年度	平成27年度	目標値	評価
ブックスタート事業における絵本配布率	61.8%	67.1% (平成26年度)	70.0%以上	(改善)
児童生徒の1か月あたり読書冊数	小学生 8.2冊 中学生 2.1冊	小学生 9.7冊 中学生 3.5冊	小学生 10.0冊 中学生 3.0冊	小学生 / 改善 中学生 / 目標達成
市民センターにおける読み聞かせ活動実施館数	89館	119館 (平成26年度)	129館	(改善)

(施策2) 学校における子どもの読書活動の推進

子どもの読書活動を推進するためには、学校での読書に対する継続的な指導やその環境整備なども非常に重要です。学校では、学力向上のためにすべての教科等の学習で「言葉の力」を高める指導を充実させてきました。さらに、子どもが読書習慣を身につける機会の提供や学校図書館の環境整備など、子どもの読書環境づくりに努めました。

指標	平成 21 年度	平成 27 年度	目標値	評価
週に1回以上、10分間読書を実施する学校の割合	小学校 91.5% 中学校 23.8%	小学校 97.8% 中学校 33.9%	小学校 100.0% 中学校 40.0%	改善
学校図書館図書標準達成校の割合	小学校 38.9% 中学校 55.6%	小学校 84.0% 中学校 80.7% (平成 26 年度)	小学校 100.0% 中学校 100.0%	(改善)

(施策3) 市立図書館における子どもの読書活動の推進

すべての人に開かれている市立図書館では、子どもに読書の楽しさを体験できる機会を提供するだけでなく、学校や地域における子どもの読書活動の支援も行っています。子どもの読書活動やそれを支える人材の養成、情報提供に取り組みました。

指標	平成 21 年度	平成 27 年度	目標値	評価
市立図書館における児童1人あたりの貸出冊数	5.0 冊	6.6 冊 (平成 26 年度)	6.0 冊	(目標達成)
読み聞かせボランティア養成者数	815 人	1,296 人	1,300 人	改善

活動の基本方針② 市立図書館と学校との連携・協力の推進

(施策4) 市立図書館と学校との連携強化

市立図書館は、図書館資料の充実や子どもの読書活動を推進する人材の養成などの支援を行いました。学校は、市立図書館が持つ豊富な資料と図書館司書のスキルや知識の活用を図りました。このように、学校が市立図書館の資源を有効に活用できるよう相互の連携強化を図りました。

指標	平成21年度	平成27年度	目標値	評価
学校図書館や市立図書館を全く利用しない児童生徒の割合	小6 41.1% 中3 64.5%	小6 34.7% 中3 55.4%	小6 31.0% 中3 60.0%	小学生 / 改善 中学生 / 目標達成
「学校貸出図書セット」利用学校数	14校	72校 (平成26年度)	30校	(目標達成)

活動の基本方針③ 子どもの読書活動に関する理解と関心の向上

(施策5) 子どもの読書活動推進に向けた働きかけ

子どもの読書活動の意義や重要性について様々な手段で広く理解を促し、家庭や地域で子どもが読書に親しむために必要な環境づくりに努めました。

指標	平成21年度	平成27年度	目標値	評価
本（読書）が好きな児童生徒の割合	小6 75.2% 中3 67.5%	小6 73.2% 中3 67.1%	小6 80.0% 中3 70.0%	後退
夏休みに実施する子どもの読書活動（「早寝・早起き・朝ごはん・読書カード」）参加者数	16,199人	40,709人	30,000人	目標達成

2 本市の子どもの読書活動の課題

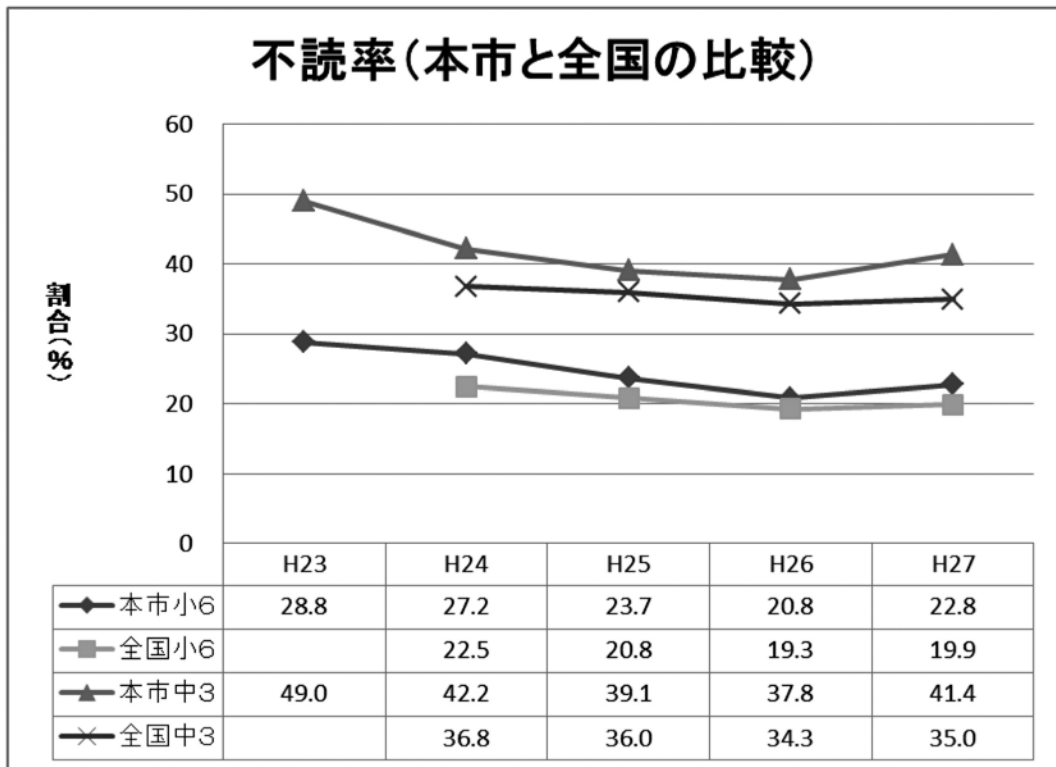
子どもの読書活動を計画的に推進するため、平成18年から5年ごとの2度にわたり「子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭・地域・学校・市立図書館などが相互に連携して、子どもの成長段階に応じた読書環境の充実に努めてきました。

その結果、具体的施策ごとの効果を測るために設定した11の指標のうち、「市立図書館における児童1人あたりの貸出冊数」や「夏休みに実施する子どもの読書活動（「早寝・早起き・朝ごはん・読書カード」）参加者数」など、5の指標で目標値を達成または一部達成しており、その他の指標もほとんどが改善しています。

しかし、プランの全体指標である「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、読書を全くしない児童生徒の割合」（不読率）については、着実に改善していますが、全国レベルの達成には至っていないことや「本（読書）が好きな児童生徒の割合」が後退していることが課題となっています。

これらの指標に加え、平成27年度に行った「北九州市子ども読書プランにかかるアンケート」の結果を踏まえて、推進会議において課題を抽出・検討しました。

今後もさらに、家庭・地域で読書活動の機運を高め、学校や市立図書館などのソフト・ハード両面での充実に努めるとともに、新たな視点による効果的な事業を実施するなど、課題の解決に向けた施策に取り組む必要があります。



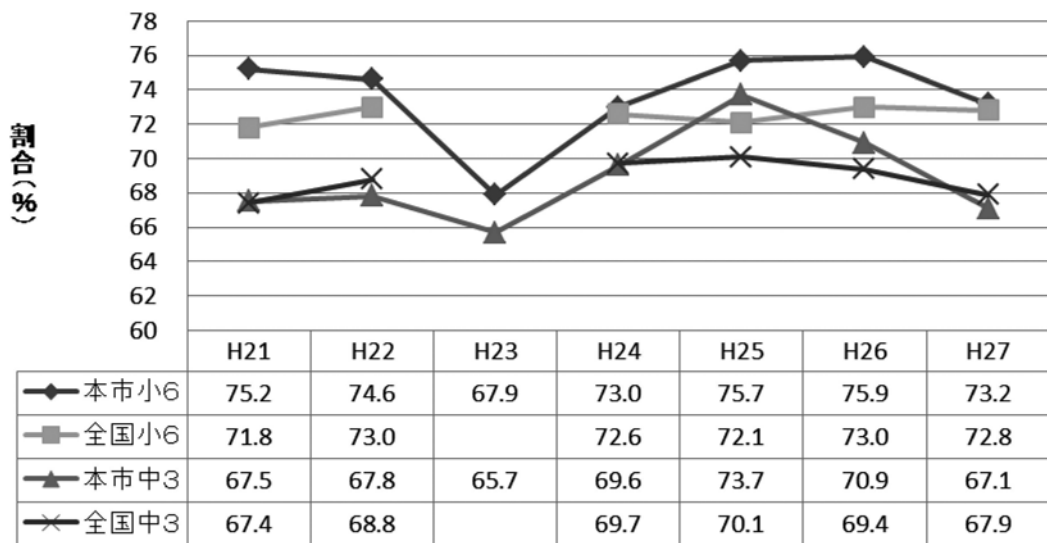
※全国学力・学習状況調査にみる読書関連データより。

※平成23年度は、震災により全国調査を実施していないためデータなし。

(1) 家庭・地域における課題

- ほとんどの保護者が「子どもが読書好きになってほしい」と思っています。しかし、現実には読書が好きな児童生徒の割合は減少しています。<下表及び資料編P14 参照>
- 子ども自身が「読書の楽しさ」や「読書をすることで何が得られるか」を理解しなければ、主体的に読書に取り組むことはできません。
- 子どもが「読書を楽しみ」と感じる基礎は乳幼児期に培われるため、乳幼児期の読み聞かせに始まり、家庭で子どもと保護者が共に読書を楽しむ環境づくりが大切です。
- 中・高校生に対しては、図書館利用の目的（多様な趣味・関心、調べ学習など）に応じた対応や漫画をきっかけとした読書活動の取組みを検討する必要があります。
- 子どもの読書時間を奪っているテレビ・ゲーム・スマートフォンへの対策や読書環境の整っていない子どもへの支援が必要です。

本(読書)が好きな児童生徒の割合
(本市と全国の比較)



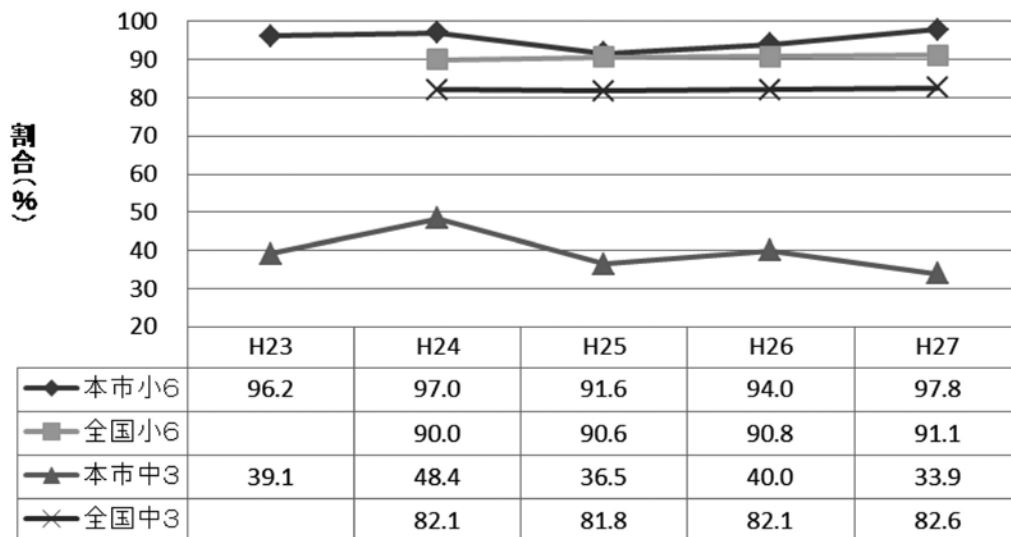
※全国学力・学習状況調査にみる読書関連データより。

※平成23年度は、震災により全国調査を実施していないためデータなし。

(2) 学校・幼稚園・保育所等における課題

- 一斉読書の時間（10分間読書など）は小学校では、ほぼ全校で実施されていますが、中学校では全国平均を大きく下回っており、実施に向け対策が必要です。
- 学校図書館への司書配置をすすめ、子どもに読書の楽しさを知らせ、読書に親しむ環境を整えていく必要があります。
- 子どもが主体的に学校内での読書活動に関わり、子ども同士が互いに本を紹介したり、楽しめるイベントを行うなど、共感し合える読書活動の充実が必要です。
- 特別な支援を要する子どもに対する、障害特性や発達の状態に応じた読書環境や読書支援の充実が必要です。
- 「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の実践率が低くなっています。＜資料編P20 参照＞

週に1回以上、一斉読書の時間を
実施する学校の割合
(本市と全国の比較)



※全国学力・学習状況調査にみる読書関連データより。

※平成23年度は、震災により全国調査を実施していないためデータなし。

(3) 市立図書館における課題

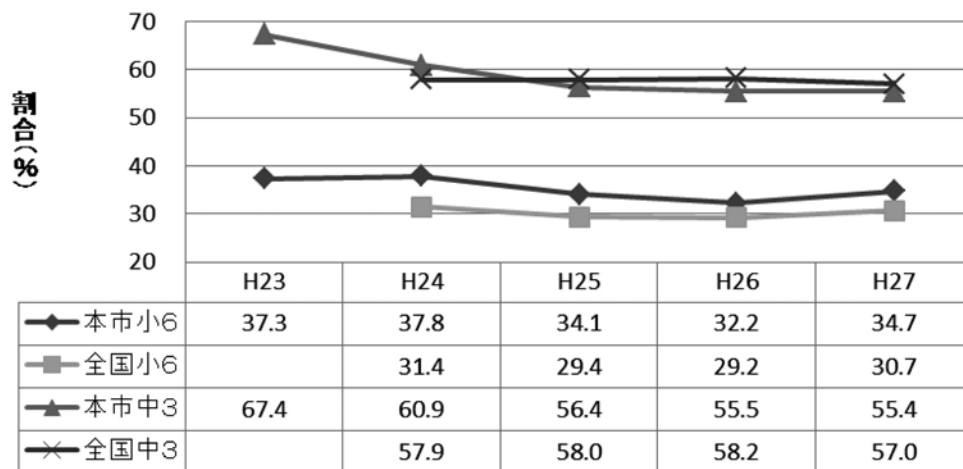
- 子どもが本にふれあうきっかけとなるブックスタート事業は、67%の配布率にとどまっており、配布率向上のための取組みが必要となっています。
- 利用が少なくなる中・高校生の利用促進に向けて、中・高校生にとって魅力ある図書館となるよう工夫する必要があります。
- 図書館利用を増やすため、読書の楽しさをアピールするイベントの実施や読書に関連する事柄について広く相談が受けられるレファレンス機能の充実が必要です。
- 読み聞かせボランティア等、子どもの読書活動を推進する人材を育成し、活躍できる場を提供するなどの取組みの一層の充実が求められています。

ブックスタート事業

	平成 21 年度	平成 26 年度	増減
配布率	61.8%	67.1%	5.3 ポイント増

(北九州市子ども読書活動推進計画進捗状況調査、北九州市教育委員会調査)

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館を全く利用しない児童生徒の割合
(本市と全国の比較)



※全国学力・学習状況調査にみる読書関連データより。

※平成 23 年度は、震災により全国調査を実施していないためデータなし。